

# 平行棒における「後方車輪から後方かかえこみ2回宙返り腕支持(バーレ)」の腕支持局面に関するモルフォロジー的考察

村田浩一郎<sup>1)</sup>、安田賢二<sup>2)</sup>、土屋純<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

<sup>2)</sup>早稲田大学スポーツ科学部

キーワード：体操競技、平行棒、モルフォロジー

## 抄録

体操競技において競技者は、技の「成立／不成立」を決定づける運動技術の習得後には、姿勢欠点に対する減点を回避するための運動技術を習得しなければならない。本研究では「後方車輪から後方かかえこみ2回宙返り腕支持(バーレ)」を対象とし、姿勢欠点や技術欠点なく腕支持に至るための運動技術について、モルフォロジー的に考察することを目的とした。

被検者は平行棒におけるバーレを習得している体操競技選手5名(年齢 $21 \pm 1$ 歳、身長 $164.7 \pm 3.1$ cm、体重 $59.0 \pm 3.8$ kg、平均値 $\pm$ 標準偏差)であった。被検者は演技中と同様に倒立姿勢からバーレを実施し、その間、被検者の左方向および前方向からの映像を、デジタルビデオカメラ(Sony社製、DCR-TRV900)を用いて毎秒60フィールドで撮影した。得られた映像において、腕支持局面のみの静止画像を60フィールドごとに抽出し、それらを時系列にそって並べることでバーレの連続写真を作成した。さらに、被検者ごとに作成した連続写真を各被検者に示し、本人が意識している技術的ポイントについてインタビュー形式で調査した。

結果として以下の点がバーレにおける余裕ある腕支持の実施にとって有効な技術的ポイントであることが考えられる。

- 実施者は1 1/2回宙返りが完了した時点でかかえこみ姿勢の解除を行うこと。
- かかえこみ姿勢を解除した後、上体を反らないように股関節および膝関節を伸展させた伸身姿勢を示し、宙返りの回転速度の減少を最小限に抑えること。
- 肩関節はわずかに外転させ、バーとの接触をできるだけ遅らせるようにすること。

スポーツ科学研究, 4, 51-62, 2007年, 受付日:2007年2月9日, 受理日:2007年7月7日

連絡先: 〒359-1192埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15 [mrt@aoni.waseda.jp](mailto:mrt@aoni.waseda.jp)